

◆経営課題は

2019年は度重なる台風や天候不順などで工事が予定通りに進まない現場もあった。その分下期は工事がずれ込むことで工事の集中が見込まれており、手持ち工事を着実に消化するための施工体制の確保を今後の課題に挙げる。作業員を直接雇い入れる直用体制を基本とする一方で、外注業者の確保や生産性向上で受注工事の増加に対応できる体制を整え、完成工事総利益（粗利益）率の上昇につなげていく。

◇

——2019年は台風などの災害に見舞われた。「台風の影響などで上期に施工高が上がらなかった分、

佐藤渡辺社長

石井 直孝氏



この人に聞く

手持ち消化へ施工体制確保

下期は忙しくなるだろう。21年3月期を最終年度とする3カ年の中期経営計画で示した目標数値の達成に向け、施工体制を確保して施工に取り組み

「今回の台風では電柱の倒壊などによる停電もあった。こうした停電対策として、今後は無電柱化工事の発注が見込まれるとみている。無電柱化工事で施工実績のある技術者を確保するなど、今後の発注工事の傾向を見据えた準備が必要だ」

——粗利益率の上昇を課題

「給与面では4月に2005年の合併以来初めて給与規定を改定し、役職者手などを見直すことで給与のアップを図った。業務負担の軽減に向けては、スマートフォンを使った社内連絡ツールを新たに導入することで、営業所な

「今回の台風では電柱の倒壊などによる停電もあった。こうした停電対策として、今後は無電柱化工事の発注が見込まれるとみている。無電柱化工事で施工実績のある技術者を確保するなど、今後の発注工事の傾向を見据えた準備が必要だ」

——粗利益率の上昇を課題

「給与面では4月に2005年の合併以来初めて給与規定を改定し、役職者手などを見直すことで給与のアップを図った。業務負担の軽減に向けては、スマートフォンを使った社内連絡ツールを新たに導入することで、営業所な

もに、工事の生産性を向上させる必要がある。本社と支店が一体となって受注前に工事内容を徹底的に精査していく。ただ、直用体制だけでは粗利益率を伸ばすだけの工事を確保するのは難しい。作業員の高齢化もある。外注ではならぬ協力会社を増やさなくてはならない」

——働き方改革の進捗（しんちよく）は。

「道路の老朽化対策工事に

「道路の老朽化対策工事に

対応するため、高速道路を中心に採用実績のあるSFR C（鋼繊維補強コンクリート）舗装や床版上面増厚工事の施工に独自開発の縦取り機という機械を使用しているが、縦取り機の小型化を含めた改良を実施し、市町村などが管理する小規模な橋の補修にも適用できるようにする。橋梁の老朽化対策は今後も発注が見込まれるため、発注工事の傾向にに応じて技術開発に取り組み

